

通級による指導のガイドの作成に関する検討会議（第2回）

平成31年4月17日

【佐々木企画官】 定刻となりましたので、ただいまから通級による指導のガイドの作成に関する検討会議を開催いたします。本日は、大変お忙しいところお集まりいただき、まことにありがとうございます。

議事に入ります前に、事務局に人事異動がありましたので御報告させていただきます。

特別支援教育課長の俵は公務で席を外しておりますので、後ほど御挨拶をさせていただきます。

同じく、特別支援教育課企画官の佐々木でございます。よろしくお願い申し上げます。

また、前回の会合におきまして、御欠席された委員の方がおられますので、御紹介させていただきます。

石隈委員でございます。

【石隈委員】 どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木企画官】 小貫委員でございます。

【小貫委員】 よろしく願いいたします。

【佐々木企画官】 また、委員に変更がございましたので、御紹介させていただきます。

堀子委員の後任といたしまして、千葉県教育委員会教育振興部特別支援教育課長、酒井委員が就任しております。

【酒井（昌）委員】 酒井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木企画官】 続きまして、本日の配付資料でございますけれども、議事次第でございますとおり、資料1、「通級による指導のガイド」（仮称）について（基本方針）と、参考資料1、委員名簿を配付させていただいております。不足等ございましたら、お申し付けください。

なお、本日の委員及び事務局の出席者につきましては、配付しております座席表にて確認をお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、議事を進めてまいります。

ここからは宍戸座長をお願いいたします。

【宍戸座長】 それでは、これから第2回の通級による指導のガイドの作成に関する検討

会議を始めたいと思います。

それでは、2回目ということで、事務局からいろいろお話があらうかと思しますので、まずそれを聞いて、話を進めるようにしたいと思います。

では事務局、説明をお願いします。

【佐々木企画官】 それでは、お手元の資料1を御覧ください。

前回は初回でございましたので、御出席いただきました委員の皆様から、御自身の自己紹介も兼ねまして、ガイドに向けたお考えあるいは提案というものを頂いたところでございます。頂戴いたしました意見を踏まえまして、また、事前にメール等で御意見等をお伺いしまして、こちらも反映させた形で、検討の基本方針ということで整理をさせていただきました。これが資料1でございます。私から簡単に御説明させていただければと思います。

このガイドの作成目的でございますけれども、前回、3年目よりももう少し経験を積まれた方も対象にしてはという御意見も出ておりましたけれども、今回のそもそものガイドの作成の趣旨といたしまして、通級指導を初めて担当する教員の方々にとって、分かりやすいものとする、かつ、そういった方々が手にとりやすい、読みやすく簡潔な内容とするという当初の目的を鑑みますと、既存の参考資料で足りるところはそちらを読んでいただくということで考えればよろしいかと思しますので、今回のガイドにおきましては、適宜、参考資料につないでいくというところにとどめまして、あくまでも、このガイドが対象とするところにつきましては、通級指導の経験が3年未満、3年くらいまでの指導経験がまだ浅い方をターゲットとして考えていく、ここを明確にした方がよろしいかと考えております。

次の項目としては、このガイドの形式・分量をどう考えるかということでございます。作成目的とも関わりますけれども、大分量にならないように簡潔な内容でということは、恐らく、前回の会議等でも一致したところであったかと思えます。既存の参考資料の紹介などについても、例えば、最近よくありますが、QRコード等で該当のページに飛べるようにするとか、読み手の負担にならないような形をとることが重要かと考えております。また、冊子として印刷するかということもありますけれども、一方でウェブに掲載して、事由にプリントアウトしていただくような形にするということもあります。そういったことも考えられると思います。

そのほかですけど、従来と違った形で、見やすくあるいは親しみやすくという観点からいけば、まさに知りたいというところについて、短いことが必要だと思えますけれども、

動画のようなものを差し込むことも考えられるのではないかと思います。

具体的な分量につきましては、持ち運びを考えますと、以前作成しております手引きなどは150ページぐらい、あるいは、これも委員の皆さんは御存じだと思いますけれども、特総研さんでまとめられた手引き書は70ページ前後で、こういった分量も目安に、できるだけコンパクトなものと思っております。この辺についても、具体的な御意見がありましたら、御遠慮なくいただければと思っております。

その下でございます、ガイドの構成につきましては、前回の会議の後にメールで御意見を頂戴いたしまして、理論編、実践編のような構成が良いのか、あるいは年間の動きに合わせた構成が良いのか、双方、いろいろ御意見があったわけでございますけれども、障害の理解や通級の位置付けなど、まず押さえていただきたい基本事項について触れておく必要性というのは、皆様、お感じになっているところでございましたので、一種、折衷的な案といいますか考え方といたしまして、まず、基本的な事項について説明した後に、通級の担当者としてやることを年間の動きに添って解説をする。後半、その後は実践練習あるいは参考となる情報を添付するといった構成案ではいかがかと考えております。この部分につきましては、2枚目以降の別紙で目次の形でお示ししているところでございます。

1ページおめくりいただきまして、実践例というところでございます。盛り込む内容、扱う実践例、それぞれ委員の皆様からお出しいただいた意見を記載しております。実践例につきまして、例えば、1事例につき見開き2ページぐらいの簡潔な分量が良いのではないかと考えております。実践例につきましては、このガイドの一番大事なところを占めるのかもしれませんけれども、取り上げる件数、様式など、あるいは全体の分量と勘案しながら決まってくるところもあると思うんですけど、これも引き続き検討させていただきたいと思っておりますので、本日、御意見がありましたら、御遠慮なくいただければと思っています。

その下、作業スケジュールの再確認というところでございます。恐縮ですが誤植がありまして、第4回が6月17日金曜日となっておりますが、月曜日の誤りでした。申し訳ございません。

前回、作業スケジュールをお示ししていますけれども、実際に執筆に入ってから確認、調整が出てくることも想定されますので、全体的に執筆開始を1か月前後前倒しするスケジュールに見直しをさせていただいたところでございます。この会議、次回以降ですが、5月10日に第3回、6月17日に第4回ということで、その後、7月に執筆を開始して、8月には、現状の共有というか、少し調整と申しますか、そういったところを図りながら、さらに執

筆を進めていき、年度末までに完成を目指す、そういった大方のスケジュールをイメージしているところでございます。委員の皆様には、恐らく今後、事例の御紹介あるいは、当然関連しまして執筆の御協力というところに、いろいろ御相談させていただくことになるかと思っておりますので、その節は、また御協力いただければと思っております。よろしく願いいたします。

最後、次のページに、別紙ということで、目次（案）を添付させていただきました。先ほどガイドの構成でも御説明いたしましたけれども、4部の構成にさせていただいております。1部は、まさに概説的な内容ということになります。2部も基本的な内容でございますけれども、4月から3月までの年間スケジュールを通した形で、まさに初めて担当等になられた方が戸惑わないように、この時期はこういうことがあるということを知りやすくお見せする、あるいは、節目節目で起きてくるであろうことに対して、どういう対処、あるいはどういう連携機関があるかとか、あるいは保護者との関わりなどについても、お示しできれば良いなと思っております。

第3部は、まさに今の実践の事例の話でございます。実践事例のところですが、ここはまさに前回の御議論の中で、障害種ごとの御紹介がよろしいのか、あるいは、いろいろな困難があるけど、困難ごとの実践事例の方が良いのかとか、いろいろ御意見がございましたので、ここにつきましては、後ほど忌憚のない御意見をいただければと思っております。

第4部につきましては、参考資料以外に情報を得られるサイトの紹介といたしまして、インクルDBあるいは特別支援教育教材ポータルサイト、特総研の講義配信コンテンツ、これは例示で、そのほかにもいろいろあるかと思っておりますけど、これも簡潔かつ分かりやすい、大部にならないような形で御紹介をさせていただければと思っております。

資料の説明は以上でございます。

【宋戸座長】 ありがとうございました。

今、俵特別支援教育課長がお見えですので、御挨拶お願いできますか。

【俵特別支援教育課長】 4月に特別支援教育課の課長に着任しました俵です。よろしくお願い申し上げます。

まだ2、3週間ぐらいですが、これまでの間にも、最初に自閉症啓発デーがあったり、シンポジウムがあったりしました。あと、途中では盲・聾者の方の支援をしているNPOの方にお会いしたりもしました。また、企業で活躍されている聴覚障害の方にも会ったりしまし

たし、国会の方でもいろいろな支援をする議員連盟ができていて、それぞれ、障害のある方自身の活躍であったり、障害のある方を支援する方々がこれだけ多くいるんだなというのを実感しています。私ども、このガイドを現場で使えるように、これは口で言うのは簡単ですが、作るのはなかなか難しいものだろうなどは思っています。先生方の協力あるいは支援を得て、良いものができるようにやっていきたいと思っておりますので、是非よろしくお願ひします。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

それでは、きょうは、今説明していただいた資料1、それから、別刷りの目次（案）などを使って、委員の皆様から御意見を賜りたいと思っております。

皆さんの御意見に基づいてきょうの資料が出来上がっていますので、きょうも是非、忌憚のない御意見をいただきまして、次回の資料や作業に生かせればと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

忘れましてけれども、きょうは蒲田先生が所用があつてお休みということですので、御承知おきください。

それでは、先ほど佐々木企画官から細かく説明がありましたけれども、通級による指導のガイドを作るにあたっては、委員の先生方の共通理解が大事かと思っておりますので、本日は作成目的から始まって、お手元にある資料1に基づいて、順次、御意見をいただければと思います。

まず最初に作成目的ですが、この内容につきまして、御質問とかがありましたら、お出しただければと思います。

先ほどもお話がありましたように、先生方の中には、3年程度ということの一つの目安で考えていますけれども、それ以上の方も含めてはという話も出ていましたが、手引きとか、ほかの資料がありますので、そういう資料に結びつけるためには、入門期の本当に手にとりやすいというか、手にとって、日頃の悩みを解決するための糸口になるようなガイドにできればということが一つコンセプトとしてあるかなと思っています。そういうことを含めて、何か御意見があればお出しください。

【野口委員】 私は3年ぐらいまでの方を対象とするというのはすごく良いなと思っていて、3年以内というところで皆さんがよろしければ、次、是非、皆さんと共通理解を図っていきなと思うところが、3年ぐらいの人って、大体、どういうスキルを持っている人を想定するのか、どれぐらいまでの人を目指していくんだらうかということです。結構、そ

それぞれのイメージする像が違うのではないかなと思っていて、その部分を、具体的にこういうことができる人とか、ここまでする人みたいな形で、委員の皆様と一緒に合意ができるの良いなと思っています。

【宍戸座長】 現場の先生方が、例えば3年未満という、どういうことに悩んでいたり、どういうことが必要なのかなということが具体的に聞けると共通理解ができるのではないかなという意見かと思うんですが、ほかの先生方、いかがでしょうかね。3年未満の方々は、こういう形で悩んでいらっしゃる、興味を持っていらっしゃるというようなところをお出しただければありがたいと思います。

【野口委員】 あと、多分、皆様の中で、大体、これを読んで何ができるようになってほしいのかとか、どれぐらいまでできるようになってほしいのかというゴール像とか、子供に対しても結構、目標を立てるときに具体的な行動目標を立てると思うんですけども、そういった形で、ある程度の、アセスメントでいったら、大体これぐらいできると良いなみたいな。そこに合わせて、どういうふうに内容を書いていったら良いのかとか、どれぐらいの書きぶりが良いのかといった優先順位もそれによって変わってくると思うんですけども、いかがでしょうか。

【宍戸座長】 口火を切るのに、野口委員、現場の先生方とお付き合いされたりした中で、こんなところが一つ目安とか、あるいは内容として必要かなというものがあつたら、例示として出していただければありがたいと思います。

【野口委員】 ちょうどうちの会社も今800人ぐらい指導員がいて、全員が経験がある者ではなくて、大体みんな20代後半から30代前半なので、初めから全部できるなんて難しく、今、8段階ぐらいにレベルを分けて、1段階の人は大体これぐらい、2段階目の人は大体これぐらい、3段階目の人はこれぐらいというような形で目標設定、こういうスキルを習得できるようにしようという、お互いに合意形成がしやすいような形で作っています。

【宍戸座長】 今、8段階とおっしゃいましたけど、3年ぐらいだと、大体どの辺になるんですか。

【野口委員】 3年ぐらいだと、人によるんですけど、うちは完全にスキルで評価するので、全く経験のない方だと、大体、等級3とか4までいけると良いかなぐらいです。

【宍戸座長】 ちょっと説明していただけますかね。

【野口委員】 例えば情報収集だと、等級2の方だったら、子供と保護者の困りと願いに対すること、環境の情報をまずは整理することができるとか、あとは子供の行動に対して、

何でそういう行動が起こっているのかというところを、これまでの対応とか、その理由について情報収集ができるなど、具体的な状態像があります。ここまで細かなくて良いと思うんですけども、具体的なゴール目標にしています。また、目標設定と手立ての考案、その計画の実施、達成度の評価についても細かく目標を立てています。多分、皆さん、アセスメントだったらここまでできてほしいなとか、計画だったら、3年目の通級の先生の個別の指導計画だったら、大体これぐらい書けてほしいなというのがあると思うので、それをどのレベルまで目指すんだろう、上を目指そうと思えば非常に果てしなくなると思うんですけども、どれぐらいのレベル感かというのが共有できると、では、そこに向けてどういう内容を抽出して構成していったら良いのかという、目次の中身の具体的なところが議論できるのかなと思いました。

すみません、ちょっと長くなりました。御質問とかがあれば。

【宋戸座長】 ありがとうございます。今お話を聞いた中で、私が勝手に集約してしまうと、アセスメントについてとか、計画の立て方についてとか、指導方法についてとかあるいは、保護者あるいは相談することができるとか、例えばこういった事項についての目標像があると良いのかなとはいえるかと思いましたけれども、ほかの委員の方々、今のお話を聞きながら、内容の話になっていますけれども、内容としてはどういうものが盛り込まれると良いのかなということのヒントになるかと思いますが、いかがでしょうか。

はい、どうぞ、お願いします。

【酒井（康）委員】 酒井です。

通級による指導を適切に行うと言ったときに、この適切というのが、今、野口委員がおっしゃったのは、子供に対して適切な教育内容を提供できるという意味合いだと思うんですけども、恐らく学校教育の場だと、適切な運営ができるとか、学習指導要領にきちんとのっとなっているとか、そこら辺の位置付けをきちんと押さえることができるとか、制度的な側面というんですかね、そこも適切に入ってくるのではないかと思うんですけども。私は制度的なことは全く答えられないんですが、ガイドで両方載せるのか、今、野口委員から出たような、割と実践的な部分に絞るのか、その整理も必要かなと思うんですね。というのも文科省から出るいろいろな冊子とか資料とかを見ていると、どうしても制度的な説明が多くなってしまい、用語も難しく、何を書いてあるか分からないようなものがどうしても多くなってしまう側面があるかなと思うんです。制度的にはっきりさせたいということはよく分かるんですけども、どこまでそこを盛り込むかというのも議論したい

など思っているところです。

【宍戸座長】 今回の件につきましては、別紙の目次（案）を見ていただくと、先ほどの説明の中に、基礎知識というのが入っているかと思います。これは恐らく、通級による指導の位置付けなども書いてありますので、制度的なものがここで少し紹介されるということだと思うんですけども、ただ、今お話があったように、どんどん専門化していきますと、これだけで解決はできませんので、専門的な事柄は文科省で別途発行している通級による指導の手引きというのがあり、より詳しくなっているので、そっちの方に渡れるような、良い意味でのガイドと考えたらどうかと思うんですが、いかがでしょうかね。

【酒井（康）委員】 はい、そのように思います。少し内容のことになってしまうんですけども、例えば障害種というの、自閉症とは何かという解説を多分わざわざここではしなないと思うんですね。そうすると、障害者の情報って何を載せるんだろうか。僕は載せるべきものはあると思っています。例えば校内委員会ということを書かれたときに、校内委員会の制度的な説明は、多分、別のところにいっぱい書いてある。では、ここに書かれるべき校内委員会の記述ってどんなものなのかなというのを、制度的な側面から書くのか、支援に生かせる側面から書くのかによって、随分、書きぶりが変わるだろうなと思っています。

【宍戸座長】 その点に関しても、制度の中身とか支援委員会がどういうふうには設置されて活用されているかということは、手引きも、ガイドブックもほかにもあるかと思うので、恐らく3年未満の方々が抱くような疑問、当然そういう疑問が湧いて当たり前のことなので、まずそれを大事にしながら、今度は指導の手引きなどにつないでいくための橋渡しになるようなものがこの中で書けると良いのかなとは考えたんですけども、ただ、ちょっと漠然としていて申し訳ありませんけど。

はい、どうぞ、お願いします。

【本田委員】 LITALICOの例は、恐らく、1人でやるのではなくて、複数、チームでやって、ある程度、スーパーバイザー的な役割の人と、見習的に始めて、二、三年たったときに、ある程度一人立ちするというモデルで作られていると思うんですね。

学校教育の場合に、通級指導というのは、私が見聞きしているところでは、割と複数でやるところが多いので、そういうモデルになると思うんですけども、そうすると、3年と書かれているのは、ひよっとすると、3年ぐらいたつと、後輩を従えて、少しリーダー的にやれる年代と考えるおられるのか、私、ちょっとその辺は分からないんですが、私ども医

者の世界では研修医制度というのがございまして、2年間は幅広く全部回って、その後3年間ほど専門のコースで少しやるんですけれども、やはり最初のうちは病棟で、先輩のお医者さんに付いて、とにかく患者さんへの細かい対応をいっぱいやって、1年、2年とたつにしたがって、例えば患者さんに説明をきちんと自分でやるとか、御家族に対してそれなりの対応をするとか、あと、ある程度、外来を診られるようになるとか、そんなふうに仕事の幅が広がってくるのと、より総合的な視点が必要になってくるんですね。そのあたりが、恐らく、通級の既に出ているものというのは、ある程度、全部を網羅したもの、今回のガイドラインはそこをつなぐものということは、本当に日常的な業務をどうこなすかというレベルからスタートして、徐々に幅広く視点を広げていけるようなものということになると思うので、そうすると、1年目というのは、本当に細かい、ある程度の業務を回すための知識が必要、だけど3年となると、そこに少し段階が加わってくると思うんですね。だから、そのあたりを1冊でどうまとめるのかという議論が必要かなとは思いました。

【宍戸座長】 今、本田委員から貴重な意見がありましたけれども、ガイドの構成のところを見ていただくとお分かりかと思うんですが、基本的な事項、これは今話題になっていますよね。それと2) のところに、1年間の実践を見通した通級指導の解説、つまり、1年目、まだ入ったばかりの人は、1年間どういう流れで通級指導を行う必要があるのかというのが、なかなかイメージが湧かないかもしれない。そういうところも解説する必要があるのではないかという意見が前回ありましたので、これは確かに必要だろうなと思っているところです。ですから、現場の先生方、今、1年から3年という形で話をしていますけれども、最初に通級を担当するようになられた先生方がどんなことを求めているのか、あるいはこんなことについて悩んでいるのかという、実際の様子をお聞かせいただけるとありがたいと思うんですが、いかがでしょうか。

はい、吉成先生、どうぞ。

【吉成委員】 今週から指導が始まったんですけれども、指導を開始するにあたって、やはり、教科書がありませんので、実際、何を使ってどのように指導をするのかというところに、初めて指導をする方々は悩まれているところです。そこを先輩の先生たちが手とり足とり教えながら、子供に向き合えるように準備をするという1週間でした。今回のガイドが、3年以上たった先生方が初めて指導をする人に説明するための資料にもできるとありがたいと考えます。

私自身も、明日必要だと思うことからお伝えし準備を進めていますが、今回のガイドの

ように1年間が見通せると、今月はこういったことが必要だから、これについてどのように準備していこうか、そんなふうを活用することができると非常にありがたいなと思っています。

読んでそのとおりに理解しながら進めていくというところは、最初はなかなか難しいところがあるかもしれませんが、そのガイドを使い、先輩が説明をしながら、指導について、やりながら学んでいくというところが実際のところなのではないかなと思っています。

以上です。

【宍戸座長】 東京のように複数で教室が運営されていると、先生がおっしゃるように、ベテランの方が新人の方を指導するというイメージも出てくると思うんだけど、地方の場合は1人でクラスを持っているような教室もありますので、その場合には、やっぱり、本人が読んで、少し理解できるようなものも必要なのかなという気がしますので、本人が読んで分かれば、先輩ももちろんアドバイスできるわけで、そういう実態があるということも併せてお考えいただくと良いのかなと思います。

三嶋委員、いかがですか。

【三嶋委員】 私の場合は、特別支援学校の経験なので、通級による指導というところでの自立活動の部分とか、あと、同僚と年齢構成もいろいろありますので、学び合いというところも、通常の学校の中で、通級担当の先生が1人とか、そういった現状の中とは、また違うと思うんですね。そういったところで考えると、前回もお話しさせていただいたんですけども、このガイドが、やはり、日々、担当になって、あした何していったら良いのかな、この前期、1学期何したら良いかなというところもコミットしたい部分もあると思うんですね。だから、経験の浅い先生が読むと考えたときに、もちろん自立活動のこととか通級の位置付けとかというものはしていかなければいけないんですけども、現在の案のように基本事項の後に事例が出てくるのではなくて、まずは実践例とか、授業においてどういったことが必要なのかなというところに、まず目が行くのかなと思うんですね。また、通級による指導は、そこだけで完結するのではなくて、一番大事なのは、通級による指導を受けている子供たちが、在籍している通常の学級なり、他校だったら、その学校の中での学びやすさとか、生活のしにくさを解決していったりする、その連携が大事なので、連携のところは外せないのかなと思うので、実践例では連携について取り上げてほしい。あるいは、教科書がありませんので、どういった授業内容にしていって良いのかな、どういった年間計画が良いのかなというところあたりが教員として一番大事にはなってく

るので、実践例だけではなくて、年間を通した形の部分も必要かなと思っています。ガイドの構成のところは、意見を言わせていただいたところをすごく反映していただいているので、私は良いのかなと思っています。

【宋戸座長】 今の御意見で大事だなと思ったのは、順番に見ていかなければ分からないではなくて、本人が悩んでいるところ、興味があるところにまず入って行って、そこから、子供の困り感とか、どういうことを関われば良いかなということを考えて、大もととして、では、仕組みはどうなっているかとか、そういうところにまた戻れるような見方、見つけ方ができる構成とか示し方だと、手にとって役に立つのではないかなという意味で聞かせていただきました。

はい、ではどうぞ、小貫先生。

【小貫委員】 明星大の小貫です。1回目は失礼させていただきました。

今、順番に行かないでというお話がありました。実は今でも13校くらい、学期に1回くらい回って、校内委員会なんかと一緒に参加することがあるんですが、随分古い話になりましたけれども、当時、特別支援教育コーディネーターができたときに、何をやったら良いのだろうというところがあって、文科省は当然いろいろな発信をされていたわけですが、やっぱり、何をあたって良いか分からないという状況の中で、私ごとで恐縮ですけど、ある出版社から、『校内委員会の1年間』という本を出したんですね。完全に4月、5月と順番に並べて、4月に徹底的に必要なになる情報をチェックリストを作って、これが発生しますと。これについては、こういうことがポイントで、分からなければこれを見に行ってくださいと、実際は4月にやるものだけど、本としては5月に入れているんだけど、4月にやることもあり得るものですから。索引なんかもつけてまとめました。この内容については、非常に重要なことばかりが章立てで並んでいる中で、第2部、4月から3月までどのような業務があるのという副題が付いているところでいうと、むしろ、最初から構成自体が、私、4月に何をやるのかな、と見て、やったらチェックしていく、そして、このことについて、どこに解説があるんだろうと飛べれば、1年間でうまいこと使えないかなと思いました。いろいろ盛り込めないで、既存のものについては何々を見なさいと。これまで、こんな手引きが出ていますよ、こういう報告書も出ていますよ、インターネットを見れば、このあたりに書いてありますよみたいなところさえあれば、本当のガイドというか、旅行ガイドみたいなものですが、見たいところからとやってしまうと、見落としもあるし、順番に必要なことから出会うような形の作りというものもあるのかなと、既に案が出ていらっ

しゃるようですが、ちょっとそのあたりを感じましたので、発言させていただきました。

以上です。

【宍戸座長】 ありがとうございます。目次（案）はあくまでも前回の意見を基に、参考までに作ったものですから、これに縛られる必要はないわけで、これを砕いたり、組み合わせていただければ良いかなと思います。今、第2部で4月から3月までの事柄をまとめるとすれば、分かりやすいもので並べていって、とっつきやすくするというのと、もっと詳しいことを知りたかったら、QRコードとかいろいろなもので誘導するということが大事ではないかなという御意見かと思いました。

長瀬先生、どうですか。

【長瀬委員】 教員の3年目というのを思い浮かべると、先ほどお話の中にありましたが、自力でアセスメントができて、それが指導に結び付けられるというあたりが3年目の方の目標なのかなと思いました。アセスメントをするといっても、いろいろ幅は広いんですけども、子供のたくさんの課題の中から主たる課題を拾い出して、そこから指導の優先順位を考えられる、それが1時間の指導に結びつく、そういったアセスメントから指導への流れが自力で立てられるというのが一つ目標になるのかなと思いました。

それとは別にもう一つ、教室運営の面ですと、今お話が出ていましたけれども、外部との連携です。連携といっても保護者とか関係機関とかいろいろあると思いますが、特に教育委員会や外部の関連の施設との連携がある程度とれるということも、3年目ぐらいからやり始めることかなとは思っています。

4月から3月の流れに添ってというのは、新任の方にはとても分かりやすい内容だと私も思いました。

もう一つ、通級の場合は、入級から退級の流れというのは年度に縛られない部分でもあるので、入級から退級に至る流れのようなものもどこかで、触れられると良いと思います。目次の中に通級による指導のフロー図が書かれていますけれども、1人の子供が入ってきてから出ていくまでの流れというのも少し扱えると良いと感じます。

【宍戸座長】 ありがとうございます。今、3年未満ということで考えると、3年目ぐらいで、それなりの子どもの指導、課題が見つかって、自分で指導すべき内容を選定して、このことを指導するんだということが分かるぐらい、その辺が一つのイメージではないかなという御意見がありましたけれども、ほかの委員の方々、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

【川嶋委員】 弱視学級、川嶋です。

日頃感じていることで、先ほどから皆様と3年目ということをお話ししているんですけども、初任で学校の先生になって初めての3年目の方と、教員としては長いんですけども、通級指導は初めてという、二通りあるのかなということをお思いますと、初任の方は、とにかく何でも吸収していくということで良いのかなと思うんですけども、通常の学級の担任が長い方と割と多く接する機会が多いのですが、今までの御経験から、どうしても通常の学級のやり方に合わせようとする人が多いので、教育課程の違いから、通級と通常の学級の違いがはっきりと理解できるようなことも要素として、第1部、第3章の教室運営の概要のところ通常学級との違いと示されてありますが、そのあたりも少し盛り込んでいけると良いのかなとは感じています。ただ、具体的にこうした方が良いという案というのは、これからかなと思っています。

以上です。

【宍戸座長】 きょうは、まず、こういう内容とか、こういう構成があると良いのではないかと聞いています。次の執筆の段階になってくれば、それぞれ執筆ということが関わってきますので、もし自分が書くとすればどうなるかということになってくると思うんですけども、それはさておいて、まずは全体として、こういう内容があると良いな、こういう構成だと新任の方も読みやすいのではないかと、そういう視点で御意見をいただければと思います。最終的には、こういうレベルでとか、子供の実態とか先生の関心についての共通理解は、いろいろな意見を聞いた上でまとめられればと思っています。

あと、このガイドを作った後で、どこにつながるかということは、資料1の(*)のところには、教育支援資料とか、ガイドラインとか、幾つか書いてあります。これについては、第1回のときに資料として少しずつ抜き刷りでまとめたものがあります。それがある意味、詳しい資料だということで、そこへつなげるようなきっかけのガイドだと考えていただけると良いかなと思っています。

はい、先生、お願いします。

【石隈委員】 東京成徳大学の石隈です。よろしくお願いします。

皆さん方の発言あるいはLITALICOの資料を見させていただいてイメージができてくるんですけど、通級指導を初めて担当する先生が4月から1年間を見通すという小貫先生の御意見に賛成です。初めての担当の先生が4月から学ぶのは、やはり基本的には遅いような気

がして、できたら、この資料ができたら、もし人事が決まったら、3月に2週間でも良いから集中で講義をやるとか、あるいは将来的にこういう可能性のある先生は、日頃から共通して研修を受けてもらうとかというのがあると良いと思います。そしてもちろん、4月から先輩のスーパーバイザーの先生と一緒にやるのはとても良い方法だと思うんですけど、それでもいろいろな戸惑いがあると思うので、そういう意味で、このガイドが事前研修に使えるというのも一つのポイントであるし、できればほかの教員も、どこかで共通の知識として、通常学級の担任の先生も持てるような内容になれば良いなと思います。

それから、さっき、川嶋委員がおっしゃったように、私もずっと、通級指導は初めてだけど、教員としては中級、ベテランの方もいらっしゃれば、いろいろな方がいらっしゃるの、その辺の課題はあるかなという気がして、でも、若くて通級指導をやられる方もいらっしゃいます。教員としての基盤の部分はある程度あるという前提でこれは書かれると思うんですけども、教員経験は多様でという点をふまえておくという問題意識も共有しました。

【宍戸座長】 ありがとうございます。資料1に戻って、作成目的、3年ということで、いろいろなイメージがあるという話がありましたけれども、3年ということの一つ目安にしながら、通級による指導に関わる人に、ガイドとなるものを考えましょうという点についてはよろしいですね。3年と言いつつも、もしかすると、まるっきり新しくなった先生もいるし、あるいは通常学級で経験の長い方が通級を担当する場合がありますけれども、その辺は、通級を初めてやるという前提で考えたら良いかなと思います。

【佐々木企画官】 今、座長からお話いただいたように、まず、最初に入ってきた人が最初に手にとるときに、見たいこと、知りたいことが書いてあることが基本かとは思っております。ですから、経験を積まれて、3年ぐらいたたれた方は、どちらかという卒業になりつつあるので、その人が手にとるガイドではないし、あるいはそれよりさらに上の指導される方、もちろん、教え方の意味では参考になると思うんですけど、その方にとって、第1次情報としてビビットなものというよりは、今申し上げたとおり、初めてなんだけれど、言葉もよく分からないよというような人たちが手にとって、あっ、そういうことだったのかというような資料であるのが、まず最初のミッションかなとは思っております。

【宍戸座長】 作成目的、通級による指導を初めて担当する、通級による指導に初めて関わる方が入っていけるようなものをまず考えましょうという共通理解はよろしいですかね。

もう一つ、形式と分量というところがあります。内容の話がずっと出ていたんですけれども、あまり厚くならないようにしたいということ、それから、判もA4版ぐらいで、図とか表とかが入りやすい方が良いのではないかなということもありますけれども、形式と分量についてはいかがですかね。内容に関わるんだけれども、まず、共通理解しておきたいということで、ここで少し意見をもらっておければと思います。

はい、どうぞ。

【野口委員】 先ほど企画官の方から、動画とかも検討したいというお話があったんですけども、動画はすごく良いなと思っていて、LITALICOでも、前回もお見せした教科書を使っているんですけども、イラストを入れて、どんなに簡単にしても、なかなかそれだけでは、実際に子供とどう接したら良いのかというイメージがつきづらいという部分もあるかもしれないので、動画で、実際に子供の行動観察ってどうやってやるんだろう、子供が実際に行動しているのを見て、ポイントはここ、みたいに示したり、そういうのがあると非常に良いなとも思ったんですけども、結構、それも前提にできる感じですかね。

【宍戸座長】 はい、お願いします。

【佐々木企画官】 今後の取り上げるテーマ、内容と分量との相談にはなりますが、その辺は、鋭意、検討、研究して、またいろいろ御相談したいと思います。これまでにないものも求められているという意識の中では、そういうことはしっかり検討していかねばならないなという意味で、きょう、問題提起もさせていただいたところでございます。私も直前は県の教育委員会におりましたけれども、実際、先生方は大変お忙しいので、やはり、手にとっていただきやすい資料という意味でいうと、そもそも大部のものというのは、まず第1関門という意味では非常に厳しいものがあって、内容は精選しなければいけないわけですけど、では、実際、いろいろ手とり足とり、こういうところはこういうふうにしてということ丁寧を御説明しようとするれば、かなりの資料の分量が要るけれども、例えばそれを動画5分にすれば、かなりスリムに御紹介できるというようなメリットもちょっとあるのかなと思って、あえて御意見を頂きたいと思って提案させていただいたところでございます。

【宍戸座長】 研究所で、少し前と違う形でこういう手引きを作ったんですけども、こちらは版がA4で、B5のよりも大きくて、しかも、最後にはQRコードが入っていて、それは既にある映像につなげるようにということで、映像まで作ることは難しいとは思いますが、いろいろな情報として、こういう映像がありますよ、こういうものがありますよと

いうのを教えていただければ、QRコードでそこにつないでいけるようにするというのも、今できることかなとは思いますが。

はい、小貫先生、どうぞ。

【小貫委員】 先ほどの分量ということですが、石隈先生がおっしゃった、各自治体で、1日研修で、斜め読みでも、ざっと重要なことが書いてあって使えるテキストというような、現実でどういう形で読まれるところに持ってこられるかという視点で言うと、当然、何回も議論になっている、余り厚くなくというようなところの見通しが何となく立つのかなと。分厚いものを1日で見るとは絶対あり得ませんので、一通り触れる研修が、いわゆる特別支援学級、特別支援教室における初任者研というものに活用できるよというのは、何か目安が与えられるかなと感じました。

【宋戸座長】 ありがとうございます。一つの具体的な目安として、初任研のテキストとして使えるような分量、内容であれば良いのではないかというイメージです。その分量でいうと、どれぐらいですかね。

【小貫委員】 手引きくらいですか、どうでしょう。

【宋戸座長】 ちなみに、特総研が作成している冊子は70ページぐらいですかね。かなり絵とかを多く入れています。もう一つ、文科省で出している通級による指導の手引きがありますよね。

【佐々木企画官】 はい、150ページぐらいです。

【宋戸座長】 こっちの手引きはイラストなどはなく文字ばかりで150ページぐらいある。

【佐々木企画官】 参考資料がございますので、参考資料を省けば85ページぐらいです。

【宋戸座長】 版が大きくて、絵とか映像にもつなげるような形で、70ページぐらいが一つの目安のかなと、今、事務局では考えていらっしゃるということです。

形式や分量については、資料1にまとめてありますように、厳選したものを入れ込むということ。ここにはありませんけれども、初任研で使えるような内容であると良いのではないかという御意見がありました。

それから、URLなどでつなげるようにすることと、指導場面とか教材教具等の写真、イラスト、映像なんかもつなげると良いのではないかという意見かと思います。

はい、お願いします。

【小貫委員】 初任者研で使って、使い切るということではなくて、初任者研で扱った上で、3年くらいは机の上に置いておきたいというような分量かなということで、ちよっ

と誤解を招くような表現だったかなと思ったので、付け足しです。

【宍戸座長】 はい。初任研で使って、しかもそれを3年ぐらい手元に置いて使えるという前提で考えたらどうかということだと思います。

はい、どうぞ。

【酒井（康）委員】 大きさのところですけれども、例えば4月の内容とかというのは、イメージとしては見開きで収まると分かりやすそうだなという気がするんですね。見開きと考えると、小さい版だと、余り情報量として入りきらない感じがするんです。かといって、そこまで大きいとという、大きすぎて非常に難しいなと思うんですけれども、手に持ちやすいかどうかということもそうですけれども、1枚に収まるかどうかという観点でも考えることができるかなとは思いますが。

【野口委員】 うちには職員にはネットで共有されています。多分、100ページぐらいですね。結構厚いです。

【宍戸座長】 そうですね。インターネットとか電子ファイルで見られるようにすれば、折り込みとかは一々考えなくても良いかもしれませんけど。

【野口委員】 そうですね。

【宍戸座長】 ただ、さっき小貫先生がおっしゃったように、手元に置いてというのを考えると、折り込みで少し大きなもの、A3のものが入っていて、ぱっと分かるというのも、現場の先生方は興味の持続ができるのではないかなという気はしますけれども。

はい、石隈先生、どうぞ。

【石隈委員】 今の続きですけど、1回研修を受けてやりながら、何度も見るとしたら、ちょっとページをとっても良いので、索引を丁寧に作っていただけると、あの言葉どこだともう一度調べ直すよりは、索引でさっさと行って確認できるかなと思いました。

【宍戸座長】 索引はなかなか、手間暇がかかって大変だろうなと思いますけれどもね。ただ、使い勝手が良いですよ。

【石隈委員】 使い勝手が、そうです。はい。

【宍戸座長】 作成の目的とか形式、分量については、大体イメージができてきたかなと思うんですが、はい、どうぞ。

【酒井（康）委員】 先ほど動画ということもあったんですけども、最近、漫画とかイラストに結構シフトしているところもあるかなと思っています。というのは、こちらが伝えたい内容を動画でうまく撮るって結構難しい。ポイントを絞ってとなると非常に難し

かったりするんですね。しかも、個別だったらまだ良いのですけれども、グループでやっているような状況で、登場人物の子供たちが適切に演じてくれるかとなると、相当難しくなったりする。逆に4コマ漫画みたいな形だったり、漫画にすると、ポイントをデフォルメして伝えることもできたり、もちろん動画のよさもあるのですけれども、説明のしやすさという観点もあるかなと思います。

【宍戸座長】 はい、お願いします。

【佐々木企画官】 全部、動画を入れようとか、多分、そういうことは全く考えていなくて、一つの案、むしろ、今御提案いただいた漫画、イラストのようなものも活用し、例えば、子供が出てくると、確かに先ほどおっしゃったように、ロールプレイできるかという問題もありますけど、例えば保護者であれば、大人ですからロールプレイできますし、動画が使い勝手が良い場面もあるような気がしますので、それぞれ織り交ぜて、逆にきめ細かく、漫画もあったり、動画もあったり、そういう方が、まさに初任で困っていらっしゃる方には寄り添っているのかなというイメージもちょっと持っていますが、その辺も含めて御意見をいただければと思います。

【宍戸座長】 それでは、次のガイドの構成ということで、目次はありますが、構成案について御意見をいただければと思います。

1年間の実践を見通した通級指導の解説というのは、具体的にどういう形が良いんでしょうかね。現場の先生方がイメージされるもので、どういう工夫があると良いなということがもしあったら御紹介いただければありがたいと思います。

先ほど、1年間というのと、指導開始から体系までということと、4月、5月とはまた違うスパンがあるという話も出ていましたけれども、その辺ではどうですかね。

はい、お願いします。

【本田委員】 これは質問ですけれども、通級指導教室に入る子供さんというのは、基本的には前の年に評価されて決まっていますよね。だから、4月から初任で来る人というのは、そのお子さんが通級に入ってくるプロセスというのは知らずに、いきなり、どうぞ見てくださいというふうに入るんですか、それとも、実際に通級の指導が始まるのって、一般のクラスと同時ではないことが多いような印象を持っているので、そうすると、4月の間は準備なので、お子さん一人一人の前情報というか、これまでどんな問題があって通級に来ることになったのかといった情報を、初年度の最初のところで聞くような状況になっているのか、私、そのあたりのイメージが持っていないので教えていただければと思うんで

すけれども、恐らく、それまでの経験で普通クラスが長かった人であっても、要はこういうやり方の運営になれていない先生の場合には、4月にいきなり子供さんの情報を聞かされて、やるよと言われても、かなり戸惑うと思うんですよね。だから、そのあたりのスムーズなスタートが切れるような4月というのをどうイメージされるのが良いのかということは、私、門外漢なので教えていただきながら考えたいと思ひまして。

【宍戸座長】 それでは、実際に通級を担当されている方で、3月から4月で通級開始式があったりして、通常の学級とのつながりをどういうふうに作っているとか、そういう具体例を教えていただくと良いかなと思うんですが、長瀬先生、いかがですか、きこえとことばの教室の場合。

【長瀬委員】 はい。きこえとことばの教室ですが、前年度に通級が決定しているお子さんもいます。それで学級数は算定されるんですけども、特にことばの教室などは、年度途中でどんどん教育相談という形で子供が挙がってきまして、その子たちについてインタビューをして、入級の判定をし、必要な子供については通級になり、指導が始まるということで、全員が4月の段階からスタートというわけではありません。

例えば、初任の方が配属になったという場合は、ある程度、前年度に、担当してもらった子供を既にいる担任で相談して決めていることが多いです。年度当初、大体1週間から2週間ぐらい、指導開始までの間に準備期間をとっている学級が多いと思います。その間にすることは、保護者会などをして、担任が保護者とお子さんについて、ある程度知る。それから、在籍学校と連絡をとって時間割を組み立てる、そういった事務的なことがあります。

そのほかに、子供については、主な課題はこんなことで、こういった指導方針で、今のところ指導をする予定になっているということを教室全体で共有するようなケース会議の時間もちます。

そのような流れでスタートを切るのが東京都の難言学級では多いかと思ひます。

【宍戸座長】 ありがとうございます。吉成先生はいかがですか。

【吉成委員】 やはり、継続のお子さんについては、同じような流れだと思ひます。学校生活支援シートや教育課程を作成するところまで前年度に行っていますので、まず、そういった資料を見せながら、お子さんの通級内での引き継ぎのようなことを行ひます。それから、4月になりまして授業が始まりましたら、1週間の間に、在籍学級の授業の観察に伺ひまして、担任の先生とどういった狙いで指導をしていこうかということ短時間でもやり取りをするようにしてあります。

それから、保護者会を行いまして、担当が替わる場合には、前の担当者が間に入りながら、今年度、例えば個別学習を1時間、グループの学習を1時間のような体制で指導していくということについて、もう一度、確認するような時間をとっております。

それでようやく、指導の内容について、どのようにするのかということを決めて、準備をしていくという流れです。

以上です。

【宍戸座長】 そうすると、本田先生が御心配されたように、4月ということよりも、それ以前から、いろいろな動きがあるし、準備があるし、必要な事柄があると考えた方が良いでしょうかね。

【本田委員】 どうもありがとうございます。大変よくイメージできました。そうやってきたときに、全くの新任の先生は別としても、これまでに通常級が長かった先生方が、例えば3月の末に配属が替わると決まって、それから4月に関して、いろいろ情報を読み込んだり、準備をしたりするわけですけれども、そこで、通常の学級に染まっていたからこそ、逆に少しイメージチェンジをするために必要な作業というのが4月の初めにあると思うんですね。そのあたりが何なのかというのを現場の先生方から出していただいて、それを4月にやるべきことの中に盛り込むことが重要なのかなと聞いていて思いました。

【宍戸座長】 ありがとうございます。

【田中特別支援教育調査官】 少しよろしいですか。

【宍戸座長】 はい、どうぞ。

【田中特別支援教育調査官】 発達障害を専門にしております調査官、田中と申します。

先ほど長瀬委員と吉成委員から、通級の基本的な流れについて教えていただいたんですけども、やはり東京のイメージがあって、拠点校という、つまり、複数の通級の先生が同じ学校にいるというイメージで今お話しされたかと思います。全国的には、なかなかそういう状況ではないところもありまして、1人で担当して、前の人があけたところに入ってきて、紙だけが残っているという状況も当然あるんですね。ですので、どこを一般的にするかということもありますし、今回のガイドでメッセージとして、私たちはこういうふうにやってもらえたらうれしいよ、つまり、スーパーバイズできるような拠点みたいなもので複数いるということでどんどん、ちょっとできていけばという意味を込めて書くのか、若しくは1人しかいなくて、紙だけ残っていて、では、4月からどうスタートするかというところも両方イメージしたいので、もし皆さんの中でそういうところを御存じの方がいら

っしやれば、全国の1人でいらっしやる通級のことを教えていただければ。私が知っている範囲は今のような形があるんですけども、もしよろしければ教えていただければと思います。

【宍戸座長】 委員の先生で、お願いします。はい。

【酒井（昌）委員】 千葉県は、田舎の方はみんな1人で持っております。今、特別支援学級の子供たち、通級による指導を受けている子供たち、学級数もどんどん増えていって、特別支援学級の担任も含めて足りないような状況です。そんな中で、事務所の所長をやっていたんですけども、特担が欲しいというんですが、学校の中に1人しかいない中で育てるのが難しいような状況ですので、できれば、初任の方が、まず子供たちが来る前に、何を準備したら良いのか、そして、来たら何をしたら良いのかというのを、先ほどチェックリストとかというお話もありましたけれども、そんな形で見られるような概要があるとうれしいなと思います。そしてまた、意欲のある教員の方は、見ながら、QRコードでどんどん深く入っていきながら、自分でその子に関して調べていけるとか、そういったことで、今までのお話のようなことがあると良いなと思っております。

以上です。

【宍戸座長】 ありがとうございます。東京とか大都市圏のように、拠点校で複数担任で面倒を見られるところと、千葉県の例を出しては申し訳ないかもしれませんが、なかなか先生がいなくて、先生そのものを通常学級から回さざるを得ないというときに、どういう準備をすれば良いか。チェックリストのような形で見やすくしてあげられると良いなという検討もあるかなと思います。

ほか、先生方でお持ちの情報があれば、御紹介いただけるとありがたいと思います。

はい、どうぞ。

【野口委員】 以前訪問した小学校の先生で、通常級を20年くらい担当していて、去年より通級を担当することになった先生から、通級を持ち始めて3か月ぐらいで巡回指導をお願いされて、行ってお話ししています。そのときに困っておられたこととしては、紙として引き継がれるんですけども、引き継ぎの内容自体が分からなかったみたいなきょうがありました。例えば、個別の指導計画がどういうふうに立てられているのかとかも全然知らなかったというところ。あと、一番すごい困るだろうなと思ったのが、授業を見させていただくと、何をしたら良いか分からなくて、個別指導を見たんですけども、多分、これまで個別で接したことがないので、その先生は、1時間の使い方みたいなきょうで結構困って

いらっしゃって、1時間の中での指導内容をどう組み立てるかみたいところ、さっき、通常級との違いとおっしゃっていましたが、そこら辺まで詳しく書けると、個別授業のイメージってこんな感じみたいなことも書けるとすごく良いのかなというのは、今ちょっと思い出しました。

【宋戸座長】 ありがとうございます。今、ガイドの構成、目次（案）も含めて御意見を聞きましたけれども、最終的には、やっぱり、どういう内容が盛り込まれると良いのかなということで、まず、たくさん情報として聞いておいて、それを後で整理できればと思いますので、内容として、幾つか基本的な事項、それから、アセスメントということ、こういうことがあるよということ、それから、保護者、在籍学級との連携とかも含めてあるのではないかとということがありましたし、通級による指導を始める前の準備段階での様々な事柄もありますよということも先ほど出ておりましたし、内容として、盛りだくさんになるかと思えますけれども、後ほど整理するというので、とりあえず、通級を初めて担当する先生が知りたいだろうなと思う事柄はこんなことがありますよということを出しておいていただけるとありがたいと思います。いかがでしょうか。

はい、小貫委員、お願いします。

【小貫委員】 恐らく二つ、すごく課題になることがあって、2次障害の問題が、通級による指導で最初に大変戸惑うテーマかなと。こういう歴史があって、こんなふうになっているという、通常学級の先生方は、わがままなんでしょうか、障害なんでしょうかとよくおっしゃいますけれども、障害を持って、いろいろ荒れた状態になっているということなんかは、どう上手に伝えて良いか分からないんですけど、どうしてもお互いに追い込まれる一つのテーマかなということがあります。もう一点は、この子たちが通級に来てどういうふうに変わって行って、通級の体験が将来どんな意味を持つのかということが、ここにいらっしゃるベテランの先生方は十分にビジョンがあって育てていらっしゃるわけで、このことが必要だと確信を持ってなさっていると思うんですけど、初めて、あるいは2年目、3年目だと、良いのか悪いのか、何になっているんだろうとかいうことをいつも不安に思いながら子供と関わるんだと思うんですね。これはできるかどうか分からないんですけど、通級を利用した当事者の声、僕は小学校のときに利用して、こういう意味があったとか、あるいは保護者が、通級させて、こういうことで見通しを持てた、あるいはこういう変化が起きた、成長が起きた、通級の意味合いをこんなふうに捉えているというようなものがあると、長くやらないと出会わないようなことを、ある意味、即席ですけれども、盛り込

めると良いのかなということ、この中になかったことの一つを発言させていただきました。

【宍戸座長】 ありがとうございます。通級による指導を受けて、子供がこんなふうに変ったということ、保護者あるいは当事者からの例として入っていると良いのではないかという御意見かと思いますが。

はい、お願いします。

【本田委員】 ちょうど私が次に発言しようと思っていたこととまさにつながる内容だったんですけど、先ほどから机の上にある分厚い資料を見ながら伺っていたんですが、そもそも、通級の対象になる子供さんたちがどんな理由で通級が必要になるかという視点で、どちらかという、学級運営の立場で、こんなふうに学級で困るからという視点、先生側の視点で書かれている気がするんです。

もう一方で、先ほどおっしゃったように、通級に行って、こういうふうに自分が変わったという感想を持てる方というのは、通常クラスの中で、こういう部分で困っていることがあったから通級に行くという理由があるはずなんですね。そのあたりは、例えば、自閉スペクトラムの子供さんだったら、通常クラスの中でこんな問題が起りやすいとか、ADHDの子供さんだったらこうだとか、肢体不自由の子供さんだったらこういうところが通常クラスだけだと難しいんだということを当事者側の視点で、二、三行で構わないので、書いていただいて、それと先ほどの御発言のような当事者の視点からの感想みたいなものをセットで出していただくと、どうしてここが必要なのかということが初任の先生方にも少しぴんと来るのかなと思うんですね。

【宍戸座長】 ありがとうございます。今お話を聞きながら、言語とかきこえのように長い経験のある通級と、発達障害の場合の通級では、そこでイメージが違っているかもしれないので、両方を上手に紹介できるようにしないといけないのかなということもふと思いましたけれども、どういう内容が盛り込めると良いかということについて、もう少し御意見を頂ければと思います。

はい、お願いします。

【酒井（康）委員】 今の話につながるんですけども、やはりそうなると、最初の基礎知識のあたりから、障害種別、今まさにあったような自閉症とは何かと説明するよりも、通常級の中で彼らがどんな困り感を抱えやすいのか、それから、ICFを実際に臨床的に使っていくってどういうことなのか、多分ここから次のところに来る課題の見立てだったり、まさにプログラムで何を用意すべきなのか、その辺になってくると、今度、通常級との役

割分担という観点も入ってくるんだらうなと思ってはいるんですけども、3年目まででどこまで行くんだらうかということに、ちょっと戻ってってしまうんですね。非常に難しいなと思っています。やっぱり、その辺は整理しないと、通級に期待される役割って欠かせないんだらうなと思いつつ、初任で来て3年目までの人にそこまで求めるんだらうかと、今、非常にジレンマを抱えながら発言しております。

【宍戸座長】 最初に、3年目というのは、例えば、どこまで知識、技量、教員としての態度が身に着けば良いかというのがあったんだけど、少し視点を変えて、通級に初めて取り組む人たちがしてほしいこと、悩みに対してどう対応すれば良いかということについてアドバイスできるというか、よりどころになるようなガイドと考えてみたらどうでしょうかね。3年目でここまで到達するというのは、なかなかここでは作れないような気がしますので、とりあえず、最初の方が導入としていろいろほっとするガイドブックで、少し興味を持ったら、それぞれの専門の書であり、月刊誌とかそういうものにつなげるようにしていくということで、初任で通級の担当になった方、通常学級をやってきて長い方もいるかもしれませんがけれども、とにかく通級に初めて関わる方がこんなことで悩むのではないかと、悩んだときに、まず最初にどういうことをすれば良いのかという視点でまとめてはどうかという気はしましたけど。

はい、お願いします。

【佐々木企画官】 先ほどから、個別のいろいろな障害種を意識したこういう目標を目指してやれたら良いと、いろいろお話をいただいたわけですけども、この辺につきましても、まさに机上にもございますような教育支援資料の中には、例えば障害種に応じたような形で、どういう教育的ニーズがあるとか、あるいはそれに係る、まさに指導につきましても、指導の目的であるとか、その指導の考え方についても、かなり丁寧に御説明させていただいているところでもありますので、まさに、少しステップを上がられて、では細かくどういうふうにやったら良いのか、あるいはどういうふうな基本的な考え方なのかなというところを是非ひもといていただければなとは思っているところがございます。その前段階として、何か必要なものがあるということであれば、またいろいろ御指摘をいただきながら、エッセンスを考えていくということかと思っております。

【宍戸座長】 教育支援資料、それから、通級の手引き、それぞれ、これまで何回か改訂版を出しつつやってきて、専門的な知識あるいは方法がまとめられていますので、そこにつなぐ、通級に最初に接して困っている人たちのガイドとなるような手引き書になると

良いのかなと検討、理解できればと思うんですけど、いかがでしょうか。

はい。

【石隈委員】 先ほどから出ている子供の声を聞くことの続きですけど、まず最初に、来た子供に、通級に来ていることを本人はどう捉えているのか、どう理解しているのかを、ベテランの先生にとっては当然かもしれないんですけど、チェックリストに入れていただきたいと思います。子供が通級に来ることをあまりうれしく思っていない場合とか、意欲が低い場合、先ほどの小貫先生の2次障害とも絡みますけど、そういう場合の対応のポイントとかを入れていただくと良いなと思いました。

【宍戸座長】 長瀬先生、どうですか。

【長瀬委員】 全国の難言学級の研究組織で、初めて難聴や言語障害の教室、学級を担当される先生方へというパンフレットを毎年6月ぐらいに、全国全ての難言学級、教室に配付しております。その中に書いてあることは、まず最初は、こういった個別指導をするときの心得、心構え的なものに触れております。その次に、発音指導とか聴覚管理とかいう、あまり聞いたことがない言葉が出てくるとと思いますので、それについての解説を載せています。例えば補聴器の装用指導では、初めて補聴器を付けるときは1人でできるように十分に練習しましょう、音への関心を育てましょうという、本当に最初の、解説が出ています。このパンフレットの中には、そういった言葉の解説に続いて、難聴言語障害教育担当者の仕事一覧を作って示しております。これはいろいろな情報収集、子供への指導、支援から始まって連携の部分まで、箇条書きで示しています。初めてこういう仕事に就かれた方は、個別指導に加えて、通常とは違ういろいろな運営面で疑問があるかと思しますので、それに簡単に答えるようなものを作成しています。ぱっと見て、これだけの仕事があるんだ、そして、この中で、まず1年目、2年目の人はどの部分をやれば良いのかみたいなものをそこからピックアップして示せたら、全体像の中のこの部分というイメージが持てて良いのかなと思いました。

【宍戸座長】 ありがとうございます。全難言協で出しているパンフレット、リーフレットも参考にさせていただいたらどうかという御意見かと思います。

はい、どうぞ、吉成先生。

【吉成委員】 内容のところではアセスメントのことにも触れられているんですけども、一番説明しにくくて難しいなと思っているのが、在籍学級での行動観察のことです。観察のポイントが分からないと必要な情報を得たり、担任と話したりすることができないので、

観察の視点を載せた記録用紙を作成したことがありました。実際に使えるものをガイドの中に盛り込んでいきますと、全てを理解して指導するとはなりません、やりながら理解を深めていくというところもあると思いますので、すぐに使えるものも必要なのではないかなと思いました。

以上です。

【宍戸座長】 今のお話、それから、石隈先生のお話のチェックリストのようなものを含めて考えると、きょう、全体的に御意見をいただきたいと思いますので、次の裏面になりますが、このガイドには実践例も載せたいということで、実践例としてどんなものが必要か、あるいは今ありましたけれども、どういうふうな載せ方が良いのかということも含めて、御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

一つは、事例を見開き、2ページで分かるようにしたいという案が書いてありますが、これは前回出てきた御意見の中から引っ張ってきたものだと思いますけれども、いかがでしょうか。

それから、個別と集団の指導の違いや具体例ということも出ています。アセスメントの方法で、専門的なのは難しいと思うけど、最初に子供の困り感とかを把握するときの留意点とか、そういうこともあるかもしれません。

はい、どうぞ。

【川嶋委員】 東京都の弱視教育研究会で毎年出しております研究紀要の「あゆみ」というものがあるんですが、そちらを全国の盲学校さんや弱視学級さんにお送りしているんですね。そうすると、先ほどのお話にあったように、初めて担任になって1人でやっていたので、これが送られてきて本当によかったですというような声がお電話とかファクスやメールなどでありまして、中でも、初めてこの教育に携わる中で、指導案というのはやっぱり分かりやすいようで、まだ分からないけど、指導案のとおりにやってみました、というような声をいただくので、やはり、教員としては、指導案というのは、見やすく、分かりやすいものなのかなと思っております。ただ、ページ数をとってしまうので、略案程度になるのかとは思いますが、そのような指導の展開が分かるものが入ると、実際にやってみることができるのではないかなと考えます。

【宍戸座長】 恐らく、先生方あるいは大学の先生もあちこちお出かけになられて、こういうものがあると良いのではないかという具体的なものを見ていらっしゃるかと思いますので、もしそういうものを事務局へ御紹介いただければ、また事務局でもそれを集約で

きるかなという気がしました。

はい、お願いします。

【佐々木企画官】　　今も資料を二つほど御紹介いただきましたが、そのほかにも何かそういう参考にさせていただけるものがあればと思いますので、また、御提供いただければありがたく存じます。

【宍戸座長】　　はい、お願いします。

【石隈委員】　　ちょっと外れるかもしれませんが、すごくうまくいった、今言われる手段も含めて、基本的なことは必須だと思うんですけど、同時に、気をつけたいことというか、失敗例と言ったらちょっと言い過ぎですけど、ヒヤリハットというか、これだけはやってはだめだよみたいなものを入れていただきたいなと思います。

【宍戸座長】　　私も現場にいて、たくさん失敗しましたが、失敗したことを出してあげられると、ある意味、こういう失敗をしない方が良いよということでは、良い教訓にはなるかなと思いますけれども、ただ、そればかりも入れられないですけどもね。そういう出し方、どういうものが良いかということも含めて、出していただけると良いかなと思います。

はい、小貫委員、お願いします。

【小貫委員】　　これは恐らく賛否両論だと思いますので、一応そういう考え方もあるよということですけど、かつて、明星大学がございます日野市で、個別指導計画、通常学級のものですが、全て集めて、全て載せると。つまり、指導目標で、小さい字ですけどずっと並ぶ、指導方法がだ一つと並ぶ、評価のことも全部並べてみると。クオリティーを一定に保つのはなかなか難しい中で、実際こんなサンプルはあるよと。そこから抜き出してしまふ人もいますけれども、どうしても事例集というのが、割と特定の、でも、ちょっと自分が担当していることと違うなというずれも起こしやすい中で、網羅的な形の実践例を示すというやり方もあるかなと。賛否両論でしょうと言ったのは、そのまま、本当にマニュアルどおりにやるということも起きがちで、クリエイティブな部分を奪うということもあるだろうということもちょっと感じます。あと、略案というお話もあって、本時案のようなものと単元計画というもののサンプルみたいなものがある中で、内容は何を書こうかというところが網羅性のという考え方もあるかなということだけですが、発言させていただきました。

【宍戸座長】　　ありがとうございます。この本に、略案だけではなくて、実際の細かい

案まで載せるというのは難しいと思うので、例えば、どここのセンターへ行くと指導案を集約して載せていますよということでそっちへ飛ぶとか、そういうこともこれから必要なのかなという気がしますけど、調査官、視学官の先生で、何かそういうことを御存じでしたら、御紹介いただけるとありがたいと思います。

【青木視学官】 こんにちは。視学官をしております青木と申します。よろしくお願ひいたします。

ちょっと話がそれますが、きょう、委員の皆様方の意見を聞いていて、通級による指導のガイド（仮称）の基本方針に対して様々な御意見をいただいて、基本方針という幹が太くなったのかなど。これからさらに議論を進める中で、この幹をもっと太くしていくのか、枝葉をつけていくのかということは今後の議論に期待されることですが、皆さん方の意見を聞いていて、改めて感じたことがあります。

まず一つ目が通級による指導の対象となる子供たちは、様々な学習上、生活上の困難を持って、そして、それを改善、克服するために通級による指導という制度を使って学んでいくと。様々な困難があるんですが、一つだけ共通していることがあって、その共通していることというのは、全員が漏れなく通常の学級に在籍しているということなんですね。在籍している通常の学級でおおむね学習することで、子供たちに私たちが身に着けさせたい資質、能力を育てていくんだということがベースにあります。ですから、まず、このベースになる部分を改めて踏まえた上で、今後の議論をしていく必要があるんだろうなと思います。ですから、もっと端的に言えば、通級による指導で学んだこと、このガイドを通して先生方に知っていただいて学んだことが、通常の学級での学びに生かされるんだということを押さえる。では、どういうふうに生かすように持っていったら良いかなということが大切なんだろうなと思いました。

もう一つ、やっぱりキーワードになるのが自立活動と個別の指導計画、ここを抜きには、このガイドも、なかなか幹が密になっていかないのかなと思います。御存じのように、平成29年に公示しました小学校、中学校ともに学習指導要領の総則の中に、通級による指導の特別の教育課程を編成する場合においては、自立活動を参考にすると。個別の指導計画を作成して活用してくださいということを、今回新たに設けることができました。その点も、是非このガイドの中に盛り込むことで、このガイドの意義がずっと深まっていくのかなというような感じがしました。これも先生方の御意見を聞いて、改めて実感したところでございますので、引き続き、様々な御意見をいただければ、もっとこの基本方針が確固

たるものになっていくかなと思います。本当にありがとうございます。

【宍戸座長】 今のお話を聞きながら、自立活動の解説をここに載せるわけにはいきませんので、自立活動に興味を持ってもらえるようなきっかけをどうやって盛り込むかということをお考えいただくのが良いのかなという気がします。もしかすると、それが先ほどから話題になっている困り感とか、子供の実態で、こういう様子があった場合には通級と結び付くよというようなことを紹介して、では、具体的にどうつなげば良いかは、今度は自立活動という教育課程がありますよというところへ行ってもらおうようにするという事なのかなと。やっぱり、ぶれないようにしたいのは、通級に初めて関わることになった人が何を考えれば良いかということのガイドだと共通理解できれば良いかなと私は思いますが、いかがでしょうか。

今ありましたように、通常の学級との連携を考えなければいけないということを新しく通級を担当した先生が頭に思い浮かべるようにするためにはどういうふうな事例が必要なのかなと考えていただけると良いかなと思います。保護者と話をするためには、どういうことを情報として集めなければいけないとか、どういうふうに頭の中で整理して保護者と関わらなければいけないとか、そういう最初のきっかけをこのガイドではお示したいと思うんですけど、いかがでしょうかね。

はい、お願いします。

【小貫委員】 今、座長がおっしゃったとおりだと思いますので、実践例には、通常学級での変化というようなことを必ず入れましょうということで、我々がやっているのは在籍級での変化のサポートだというようなことが事例を通して実感できるのが良いかなと思いました。

【宍戸座長】 通常の学級で子供たちが生活する時間は多いわけですから、そこでより充実した生活が送れるようにするために通級が役に立っているんだよということがおのずと導かれるような実践例であり事例が出されると良いんだろうなという気がしながら聞いていたんですけども、ほかの調査官の先生方、何かございましたらお願いします。

田中先生、どうですか、発達のお子さんの場合には、新しい課題だし、どういうふうに見れば良いんだろうなというのが私もよく分からないんですが。

【田中特別支援教育調査官】 皆さんのお話を聞かせていただきながら、今、見開きの2ページをどういうイメージにするかを考えていたところです。私が々にいろいろな通級を見せてもらって、指導案と個別の指導計画を見せていただいたときの書かれている中身を

思い浮かべたときに、今まで聞いたことは、2ページの中にうまく収められそうな気はします。なぜかという、実態があつて、目標があつて、では、指導してみても、実際にその後どういふ変化があつたかというのは基本書くんですけども、その変化の中にしっかりと、通級の変化と通常の学級の変化と両方書いていくということも含めて、見開きで字の大きさもありますので、どれくらい入るかはありますが、すごく役に立つ情報を頂いていますので、もし、ほかにもこういうものを入れたい、こんなのがあつた方が良いのではないかとすることはどんどん言っていただいて、分量の問題はまた出てきますけれども、そこでまたお伝えはできるかなと思いますので、もう少し何かこんなものを入れた方が良いということがありましたら、是非、教えていただければと思います。

以上です。

【宍戸座長】 ほかに、こんな実践例、事例があると参考になるのではないかとということで、もし気が付いたことがあつたらお出しください。

はい、お願いします。

【酒井（康）委員】 意見というより、ちょっとイメージできたら教えてもらいたいと思うんですけど、今、方針としては3年目までということで進んでいますけれども、実践例なんか、もし、例えば10年目の人がやったらどんなふうにする事例って違ふんだらうか。今回はあくまで3年目までのガイドということですけども、作るかどうかは全く別にして、中級編のガイドブックを作つたとしたらとか、中級編の実践例だったらどこが変わってくるのか、それを踏まえて、そこまではやらなくて良いよということが多分今回だと思うんですね。その線引きってどう引くのかなというのが、僕もその答えがあるわけではないです。ただ、子供のことを考えていると、3年目だらうが、5年目だらうが、本当に必要なことはやらなければ困るというのが現場の声なんです。でも、それを全て求めると、3年目までの人には酷だらうなという、その線引きをどう引いたら良いのだらうかという悩みです。

【宍戸座長】 親としては、5年、10年かかるよりも2年とか3年である程度子供の状況が改善されるようにしてほしいと当然思われると思いますけれども、ただ、ここで考えたいのは、通級を初めて担当するようになった方のガイドで、では、その次のガイドをどうするかというのは、またこれから考えなければいけませんけれども、それはある程度、それぞれの現場とか分野で、より充実したものをまた考えていただくということもあるかと思ひますけれども、とりあえず今必要なのは、いろいろな障害も含めて、通級が幅広く制度

化されたものですから、その制度化の中で、まずは通級がより身近なものになるようにしなければいけないということだろうと思いますけれどもね。

はい、お願いします。

【野口委員】 今、酒井さんのおっしゃっていただいたことは、私もそうだなと思っていて、例えば事例を書くときに、誰がやるということを結構、どれぐらいのレベル感の人が実践するかというところは想定しないと、多分、書く側としては、結構、完璧な支援を書きたくてしまうと思うので、そこら辺は、結構、すり合わせができるの良いのかなと思っていて、例えば、事例の中に確実に含めたいなと今思ったこととしては、3年目、3年以内の方だと完璧にはできないと思うんですけども、とはいえ、助けを求めたりとか、自分以外の人に何かアドバイスをいただくことは可能だと思うので、支援付き支援みたいな形で、相談した上で良い支援ができている事例とかを挙げられると、良いのかなと思いました。その支援先は、例えば教育センターなのかもしれないし、カウンセラーの方なのかもしれないし、スクールソーシャルワーカーの方なのかもしれないし、若しくは、例えばその子が通っている放デイの人とか、そういう関係機関の方なのかもしれないし、そういうものをうまく活用するというを前提として事例を書いていくと、3年以内の方でも非常にイメージが付きやすく、かつ、ここを目指せば良いんだなというのも分かるのかなと思いました。私のイメージだと、酒井先生のおっしゃってくださったことで比較して言うと、自分である程度できるか、若しくは支援付きで良い支援ができるというので分けて考えると書きやすいのかなと思いました。

【宍戸座長】 当然、いろいろな関係機関なり専門家から助けていただいて、こういうことができますよ、やれますよという事例、実践例も必要なのではないかなという気がしますね。

はい、お願いします。

【三嶋委員】 船橋夏見の三嶋です。

今の野口委員のお話では、私どもの特別支援学校はセンター的機能というのがありますので、私自身もコーディネーター、通級の担当をしているときには、発達の通級ですけれども、相談があつて、動きの部分とか、いろいろな捉え方とか、そういったところでアドバイスをもらえないかという形のものもあつたと思うんですね。その中で、ベテランの先生もいれば、まだ若い先生もいる。限られた学校の中のリソースもありますし、あと、センター的機能や、これからの時代は外部専門家も含めて、そういうところとうまく共同し

てやっていくというところもすごく大事なかなと思うんです。

やっぱり、先ほど言った3年目までは、私なんかだと、子供との関係を作りながら、授業をしっかりとやっていくというところは外せないなと思います。そこから、例えば10年目とか、ある程度、経験ができてくると、今度、そこだけではなくて、一番大事な在籍の学級にいかにシフトしていくか。さらに、シフトしていくときも、在籍の学級の先生たちも、ベテランもいれば、若い先生もいて、いろいろな背景があると思うんですね。そういうところでうまく合わせながら、通級担当というのは、多分、コーディネーター的な要素もすごく必要かなと思うので、相手に合わせた中で、子供が在籍の中で、学びやすさとか、生活しやすさといったところにどう着目していくか。通級の先生が指導するわけではないので、今度は在籍の先生たちとか学校がその通級での指導を活用していき、子供が生き生きとしていくということが大事なので、そういうところに持っていけるのが、やはり、通級の担当が成長していく中で、自分なんかも担当していく中で思っている部分、また、特別支援学校として担うところは、特別支援学校の教員がすることではなくて、通常の学校の先生たちがうまくできるような形をどう提供していくか、相手に合せた形でのこちらの関わり方になっていくと思うので、まさしく通級の担当も、そういうところもだんだん担っていくと思うんですね。そう考えると、やはり、まず3年目というところは、授業とか、年間の計画をどういうふうにしていったら良いのか、自立活動の視点を考えていかなければいけないし、こういう行動のお子さんにはこれをやれば良いということではないですが、ただ、入り口はある程度やるのが分かっていると、なかなかできない部分もあると思うので、その日の授業と授業をどう作っていくかというところは、このガイドの中で、先ほど私が言った形になっていくと良いのかなと思います。そういったところも踏まえていくと、事例の中で授業の部分が必要かなと思います。

あと1点、別件ですけれども、2ページの中で、どういった形が良いかなというところを見ると、今までの実践事例ではこういうふうにしたというところが多いと思うんですけど、最後に、実際の事例のお子さんとかが、こういうお子さんが学級の中でこう輝ける、こういった通級の指導等があったこと、また、そこへ行かせたことがこういうふうに関わったというところが3行でも4行でもあると良いのかなと思います。通常の学級の先生との連携で、通級の指導が活かされたケースとしても良いですし、実際に子供が自分でそこを取り入れて、自己解決して、環境を調整していったケースとか、肢体不自由なんかで通級をしていると、運動動作、身体の動きがよくなったということももちろんあるんですけれ

ども、そこだけではなくて、動きにくさとか、そういったところをうまく自分で調整できたケースとか、また、そういったところを担当の先生がうまく活用して、体育の指導で少し題材とかを考えてくれたケースとかもあると思うので、そこは項立てしても良いですし、トピックスという形で何かしら連携しているところとか、通常で生かされているところを入れていくというのも良いのかなと思いました。

【宍戸座長】 ありがとうございます。ともかく実践例のところをずっと見てみると、どうしても関係機関との連携でどういうふうに、例えば初心者が関係機関とこんなふうに連携し合うと有効ですよとか、子供が安心しますよとか、恐らく、そういう例があると良いのかなという気がしました。

はい、お願いします。

【本田委員】 医療なので、関係機関の一つになると思うので。私、どうしても対象としては知的障害や発達障害が多いんですが、そうになると、医療が関わってくるのが大体2次障害、重複、それから、2次障害とも言えなくもないですけども、いわゆるトラウマや愛着関連が混ざってくる場合になるんですね。多分、3年目までの先生でそれが1人でこなせる先生がいるとしたら、奇跡的に優秀な先生ということになります。そして、ベテランの先生たちが束になってかかって医療と連携しても難しい方もいるのも事実ですので、ある程度、3年目ぐらいまでの先生がここまでやればオーケーで、連携しても厳しい人たちもいるので、そういう人たちは積極的に医療も使っていただきなり、そういう形でやっていくべき人がいるんだよということを、1例ぐらいでも良いので事例集に入れていただけると良いかなと思うんですね。やっぱり、一つ一つの障害の典型像で事例を作っていくと、それに収まり切らない人たちはたくさんいて、今、現場で、特に発達障害の領域の通級などでは、かなりの割合で重複したりしていますので、そのあたりは、ある程度イメージしておかれた方が良く、きちんと丁寧に支援をしても、なおかつ、薬物療法が必要な人も一部出てくると思うんですね。これは医療側も敷居を低くしなければいけないということは自戒の意味も込めて言いながらもですが、そうは言っても、やっぱり、紹介していただく必要があるケースがあるのも事実ですので、そのあたりをうまく書けるような工夫をしていただけるとありがたいなと思います。

【宍戸座長】 良い意味で、新任の方、初任の方が他機関の方、関係者の方に力をかりてやると、こういうことも可能ですよという例があった方が、恐らく安心なのではないかなという気がしますね。

はい、お願いします。

【石隈委員】 今の続きですけど、チーム学校というか、実践例の中に、通級の指導ではできないけれども、学校としてはこの分を補っているよ、といったように、その先生が書けなかったところをほかの先生が書くとか、あるいはほかの実践を入れるというように、チーム学校として事例を書くところがあるのかなと思います。また通級指導を初めて担当する教員ということで、きょうは教員の職業発達というか生涯学習の視点で整理してきていると思うんですけど、先ほど出たように、受ける子供や親にとっては、1年目であろうと、5年目であろうと、望むものは一緒なので、最低限これが必要だということを確認して、通級ではここが不十分だということがあれば、それは校内委員会のチームで補うとか、いわば通級を初めて担当する教員を支援するガイドもあると良いと思います。

【宋戸座長】 いろいろ御意見をいただいて、あと5分という時間になりました。実はスケジュールのところにもありますけれども、5月10日、10連休が終わった後に、第3回目の会議が予定されています。それまでに、きょういろいろいただいた意見を集約して、少し整理をする中で、今度は、事例の様式なり、基本的な事項についてはこういう事柄と絞っていくことが必要になるかなと思います。実際、たくさん意見をいただきましたけれども、ガイドのイメージ、先ほどありましたけど、主になるところと枝になるところをみんなで明確に共有していく作業が恐らく第3回目かなと思いますので、それまでにまた意見をいただいて、事務局と一緒に整理できれば良いかなと思っています。

時間の関係もありますので、あともうお一方。

どうぞ。

【西牧オブザーバー】 発達障害情報支援センター長をしております西牧といいます。

きょうは、本当にいろいろなお話を聞かせていただいて勉強になりました。少し違った視点で、提案といいますか、してみたいなと思います。

今回、お話を聞いていると、教員の方が独学といいますか、自分で読んで分かるという視点の色合いが強いのかなと思いました。ただ、やはり通級の教員というのは、この話でもありましたように、東京都とほかの地域、都市部と郡部、例えば千葉県であってもそれが違うということも明らかにされていたと思いますので、こういうテキストを作ったときに、どう活用していくかというイメージも含めて議論したら良いかなと思いました。

私の提案は、例えば事例のところ、今どういう事例を挙げていったら良いかという議論があったわけですが、例えば、参考資料の4（机上配布）のところ、発達障害に関するも

のですけれども、この事例をつらつら見させていただきますと、この中に、良い事例というの結構あるように見受けました。つまり、どういうことかといいますと、この中で事例というものを作っていただくだけではなくて、例えば、この中で使えそうなもの、さっき、QRコードを付けるとおっしゃっておられましたけれども、例えば、この事例の中で幾つかキーワードをピックアップして、タグ付けをすれば、この中から、指導ガイドに貢献するような事例がQRコードで引っ張れるかなということも感じました。また、教員の方が現場で孤立した場合に、それを支援する体制をどう作っていくかということも実は大切で、これは多分、ガイドの編集の枠を超えていると思うんですが、それについても実践事例集中で書かれていましたので、せっかくこれを作られるのであれば、都道府県ベースでこれをどう使うかというものも少し表書きに付けた上で、教員を支える環境も併せて整備をする。

実は一つ思ったのは、私も今、発達障害の臨床をしていて、こういうガイドができると、例えば、今、発達障害を診ている先生の中で、教育制度をよく分かっていない方もおられますので、こういうものを提示することで、通級というものをどう使っていただくかという説明資料にもなるなと思いましたし、また、実際に通級を利用している子供が外来にもかかっている場合、その情報がある程度リアルタイムでフィードバックされると、こちらは今うまくいっているのかとか、ここをもうちょっと工夫したらどうかというやりとりもできるかなと思いました。せっかく指導のガイドを作られるということですので、多分、本筋の部分とは少し違う話をしているとは思いますが、そういうことも少し見越したのになると、非常に素晴らしいものになるのかなと思いました。

以上です。

【宋戸座長】 ありがとうございます。ここに分厚い資料がありますけれども、そちらへつなげるようなものが、このガイドの中で示されると良いと。QRコードも含めて、そちらにつなげるような形も考えられると良いかなと思います。

それでは、時間となりましたので、きょうの会議は以上で終了とさせていただきたいと思えます。事務局より事務連絡をお願いします。

【佐々木企画官】 座長から御紹介のございましたとおり、次回は5月10日金曜日の開催を予定しております。その次は6月17日の月曜日ということで予定しておりますので、よろしく願いいたします。

資料1の作業スケジュールにも書かせていただきましたけれども、本日の議論の続きとい

たしまして、基本的な事項に含めるもの、あるいは事例の掲載について、引き続き検討させていただきますと考えております。

以上でございます。

【宋戸座長】 ありがとうございます。それでは、きょうの議事はこれで終了とさせていただきます。会議の中で言えなかったこと、あるいは外で思い浮かんだことがありましたら、どうぞ遠慮しないで事務局へお伝えいただいて、次回の会議に生かせればと思いますので、御協力よろしく申し上げます。

— 了 —